OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ジエ・エス・ミルとアルフレッド・マーシャル（二）

大泉行雄

アルフレッド・マーシャル（一八四二――一九二四）

一

偉人に筆を起したる我々は、再び偉人に筆を擱く（著者はスミスに始りマーシャルに結ぶが故に斯く云ひしなり……譯者註）。寔に若し英國經濟學者なる語を狹き意味に解するならば、アルフレッド・マーシャルは英國經濟學者中最も偉大なる人である。蓋し、アダム・スミスは蘇格蘭人であり、デヴイッド・リカードーは猶太人だからである。人はつれ〴〵なるまゝに、英蘭土人、蘇格土人、猶太人の比較をして打ち興ずるが、斯かる比較は殆んど益無き事である。ネルソンは木造艦隊を指揮しなければならなかつたが、現代の將帥は甲鐵艦隊を統禦しなければならぬ。ネルソンは一隻の潛航艇、一臺の航空機、一艘の水雷艇さへ持たなかつた。近代の大砲に比すれば、彼の大砲は空氣鐵砲に過ぎなかつた。彼の問題は、今日の將帥が取扱ふものよりも遙かに單純であつた。我等はネルソンが今日の問題を如何に取扱ふかは知らない。知らずして尙、我等はネルソンを目して蓋世の海將た

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

りとの確信を有つて居る。アダム・スミスは恰もネルソンの如く、マーシャルは現代の偉大なる海將の如し。去乍此の比較はマーシャルにとつて稍々不足である。言はゞマーシャルは、自ら運轉する船そのものゝ幾分を設計したものだからである。彼を熟知する人々は力説して言ふ、若し現代經濟學が複雜なる機關に比較し得るならば、それを設計した者はマーシャルである。少くとも彼は、遙かに單純な型の機關から發達せしめた者である。又若し近世經濟學が、何よりも先づ、デリケートな方法手段の組合せから成る論理組織なりとすれば、その方法手段中の最も價値あるものはマーシャルの仕事場で作り出されたものであると。彼は偉大なる道具の作り手であり而も最も偉大なるものゝ一人であつたのである。而も尙、ネルソンは依然ネルソンたり、アダム・スミスは今尙アダム・スミスであつて、我が偉大なる哲學者ヒュームの友人であり同輩であり、又英國歷史家中の大建物エドマンド・ギボンの同輩且つ知友なのである。スミスはマーシャルと異り、その時代の偉人に互して生活し活動した。二者は幾多の點で差異を示して居るが、然し尙一點に於て共通性を有つ。それは二者共に天才であり、各自の經驗と教養とは、二者をして其の時代の最大經濟學者たらしめんために計畫的に行はれたるが如く見ゆること之である。

現代の經濟學者は才能の人でなければならぬ。彼は數學を知らねばならぬ。マーシャルは勝れたる數學者であつた。彼は歷史を知らねばならぬ。マーシャルは勝れたる歷史家であつた。人類全史を通じて、鳥瞰圖を提供せる點で比類稀れなるヘーゲルの歷史哲學に彼は負ふ所が大であつた。彼は又獨逸歷史學派の碩學の深き貢献に負

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ふ所大であつた。彼がブリストルで、「國富の一要素としての水」なる題下に講演した時にも、その豊富なる歴史家たるの面目を示して居る。又、彼が其の著「産業貿易論」の初め數行を書く時、一見すれば單なる思ひ付きの様な形で、之まで何びとも經濟史の確乎たる把握なきことを言ひ表して居る。經濟學者は哲學を知らねばならない。之によつて思想の鳥瞰圖を把へ、一科學が他の科學に如何に關連するやを知り得るからである。マーシャルは、一八六八年獨逸に行つて居る故に、恐らくカントを原文で讀むことを習得したであらう。誰一人、最も深くして、最も神祕的なる人生問題に直面させられずしてカントを讀み得ない。カントは、近代の最大思想家（且つ最も難解なる）の唯一者だからである。マーシャルは云つて居る「余の嚮導者たるカント、余が之まで敬愛せる唯一人の人」と。扨て又、經濟學者は、汎ゆる大運動、殊にその時代の政治的、産業的運動に接觸して行かねばならぬ。マーシャルは「勞働者の指導者」と親交あり、協同組合運動に興味を有ち、アメリカの保護政策制度も之を研究した。彼はミルと同じく公共心に富み、勞働者階級の福祉のために熱烈に貢献した。この事は彼が一八七三年ケムブリツヂ大學のリフオーム・クラブで朗讀した「勞働者階級の將來」と題する崇高なる一文が實證して居る。ピグー教授曰く「マーシャルは嘗つて自分に向つて云つたことがある。自分は若かつた頃、工場で行はれる總べての機械作業の大綱を會得せんと決心した。その後工場を訪問した時には、自分は數分間勞働者を凝視することによつて各勞働者の貰つて居る賃銀を推定することが出來た。そして、此の推定が、著しく當らなかつた時は、必ずそこに或る特別の事情が存在した」と。彼が興味を覺えたのは、獨り勞働者に就てのみではなかつた。王立勞

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

働委員會の任務が彼に興味深く感ぜられた理由の一つは、これが彼を勞働者の雇主と接觸せしめるからであつたのだ。

最後に偉大なる經濟學者は自己の思想の正確なる表現をなし得なければならぬ。文筆の人としてマーシャルはミル及びスミスと並び稱せられる。尤も彼の文體が不得要領であると云ふは事實である。青年にとつて彼の著作は、恰も鰻の如く、しつかり摑んでると思つてる人々の指から逃げて行く。唯、彼の論議に就て、愼重に批判分析をなし、彼の言葉を解說せんとする人――我等は之以上に卓拔せる經濟學入門書のなきことを個人的經驗より確言し得る――、その人のみが、彼の推理の水も漏らさぬばかりに組立てられ、その思想を最も完全に表現すべき言葉を撰擇する彼の力の如何に驚歎に値するかを發見するのである。マーシャルは講壇の人としては人氣ある方ではなかつた。この點では同時代の、ケルヴィン卿に相通ふ。蓋し一般學生は、各種の試驗をパスするに役立つ樣なものを彼の講義から求めることが殆んど出來なかつたからである。彼はエドワード・ケヤードが倫理學及び哲學の敎授を、各大學に供給した夫れにも優つて、經濟學の敎授を各大學に供給する役目をしたのであつた。彼の名聲こそは世界的である。十九世紀及び二十世紀の經濟學々徒にとつて、彼は最大の敎師であつた。我等は彼の成し遂げたものは之を知るが、彼が向後成就せらるべきものとして他の人々に殘して行けるものに就ては單に推量し得るに過ぎぬ。然れども、今日に於て猶、我等は、アダム・スミス以後、彼を以て――リカードーに就ては論あるであらうから別として――經濟學界の最大巨人となすに躊躇しない。彼はアダム・スミスの單なる繼承

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

者以上に出るものと見らるべく、ある點では彼はスミスと同地位に立つものなのである。

二

アルフレッド・マーシャルは、一八四二年Clapham に生れた。Clapham は嘗つては所謂福音派を以て堅く結ばれて居つた。マーシャルの父も亦、此の宗派に心から打込んで居た。ケムブリッヂ大學に學ぶに及び、マーシャルは之まで敎へ込まれた幾多の獨斷論の信奉を拋棄した。然し「宗敎的」なる語を最も廣く且つ莫然と用ゆるならば彼は常に宗敎的な人であつた。彼は間もなく、他人を自分の考へ方に「改宗」せしめんとすることは止めたけれども、基督敎思想の下に生活すること、即ち貴き天職の念を持つことは決して止めなかつた。彼にとつて經濟學なるものは、單なる智的努力の世界ではなくて、之に依りて同胞に奉仕し得べき手段なのであつた。ジェヴオンスと異り、彼は此の世に於て「力强き善者」たらんとすることを決して公言しなかつたけれども、その希望は彼の腦裡より離れなかつた。彼が初めて敎育をうけたMerchant Taylors' Schoolでは、「彼は數學の天才であつた」と一敎師は談つて居る。此の學校からケムブリッヂに進み、こゝでは優等生の第二席を占めた。かくして一八六五年にはSt. John's Collegeの講師になつた。彼は又短期間、Clifton Collegeの數學敎師をしたが、間もなくケムブリッヂに歸へり、數學優等試驗に準備中の學生を指導した。當時彼は、物理學の研究に沒頭せんと欲したのであつたがグロート・クラブなる討論會に加入した所から、當時、思想家達の精神修養となつて居た神學上の論議に興味を

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

持つ人々に會ひ、彼は哲學を讀まんと決心した。そのために、暫く獨逸で過し、カントを研究したらしい。然れ共、形而上學の迷路に立つて、心行くばかりの滿足を求め得なかつた彼は、倫理學に立ち歸へつた。然るに間もなく一友人が、若し彼にして經濟學の智識を若干有つならば、日常生活に於ける人間行動を取扱ふ科學即ち倫理學の研究は、一層完全となるだらうと暗示したことによつて、彼はやがて人間行動の理論研究を中止した。彼は自ら經濟學の領域に立入るを以て、單なる寄り道と考へ、「純粹思索の壯麗に一日も早く立ちかへること」を心待ちした。「然れども、余は、經濟學を究め行けば行く程、余が必要とする智識に比較して、余が有する經濟學の智識は愈々淺薄なる樣に思はれた。而して今や、それのみに約五十年も專念した後に於て、余は猶研究の當初に於けるよりも更に無智なることを自覺する」と彼は後年になつて談つて居る。（一九一七年）。一八六八年に、彼は St. John's College で精神科學の講義をし、一八七七年まで續いた、彼は休暇をアルプスで過した。こゝで、彼の最も有名な獨自的理論が考へ出されたのである。その間、一八七五年に遺產によつてアメリカに遊んだ。彼は遠く東部まで旅し、サン・フランシスコへも行き、エール大學、ハーヴアード大學の經濟學教授達にも會つたが、多くは實業家と時を過ごした。彼は記してる「フイラデルフイヤで、私は保護主義の領袖達と長い間話した。そして、その人々が私に讀むやうにと推賞してくれた二、三の書物を讀むと同時に、私は今こそ自分が其の人々の立場を全く了解し得ると考へられる樣になつた。自分は、現在も亦之までも、自分と同じことを言ひ得た英國人は一人もないと信ずる」と。ケーンズ教授は我々に、マーシャルは此の訪問の結果として「アメリカ合衆國の來るべき繁

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

榮を期待し、その原因及び行くべき方向を知り得た」と明言したことを告げて居る。

一八七七年、マーシャルはNewnham Collegeの一女教師と結婚したが、彼女の才能と不斷の注意とには、彼は四十七年の間絶へず其の負ふ所を增して行つた。結婚後直ちに、彼はブリストルに行きUniversity Collegeの初代學長となつた。彼は經濟學の講義は悅んだが、事務の施政的方面は好まず、新設大學の校長に必要な、富豪の義捐的同情を喚び起す樣な手腕はマーシャルにはなかつた。一八八三年、Jowettの力により、オックスフォードのBalliol College講師に撰ばれ、印度民政官候補生のために經濟學講師となつた。オックスフォードでは、マーシャルは幸福であり、成功であつたが、一八八五年一月になつて、經濟學教授としてケムブリッヂに立ちかへり、一九〇八年まで在職した。一九〇八年から一九二四年に他界するまで、彼はケムブリッヂに住んで居た。

マーシャルは二個の記念碑を作つて居る。一つは一八九〇年に「英國經濟學會建設の提案」を發表したことで、その結果はRoyal Economic Socityの設立となつた。その二は、一九〇三年に、ケムブリッヂの經濟學々位試驗が獨立し、政治科學の諸分科が作られることになつた事である。之には主としてマーシャルが與つて力あつた。ケーンズは云つてゐる「形式の上では、マーシャルはケムブリッヂ學派經濟學の建設者であつた」又「マーシャルが今日の英國經濟學の父であることは、その著作によつてよりも、寧ろその門弟によつて一層著るしい」と。

「若し余が、幾人かの青年學徒をして、來るべき時代の經濟問題を把握せしめる樣に助力したとすれば、それこそ、余が之まで自ら爲し得た何れのものにも立ち優つて肝要なものである」。之マーシャルが其の生誕八十年に

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

際し、Royal Economic Societyより献ぜられたる祝辭に答へて書いたものである。之は寔に尤もな事であらう。同時にマーシャルは、更に二個の永遠的價値ある記念碑を殘した。第一は彼が政府委員會に提出したる諸解答である。

イ、一八八六年、「通貨と物價との問題に對する解答」。之はRoyal Commission on the Depression of Tradeによつて流布せしめられた。

ロ、この翌年Gold and Silver Commissionに對して證左を提供した（その印刷されたものは、六段半に渡り、彼の反對訊問報告は八十三頁に及んでゐる）

ハ、一八九五年、Royal Commision on the Aged Poorに證據を提出した。その調査報告は、四十三段（カラム）に渡つて居る。

ニ、一八九九年、Indian Currency Committeeに證左を提出す。調査記錄は三十四段に渡る。

ホ、同年、彼は「國稅及び地方稅の分類と歸着に關する覺書」を提出した。

ヘ、一九〇八年には、「國際貿易の財政々策に關する覺書」を提出。

第二に彼の主たる著作は、夫人と協働して物したる「產業經濟學」、「經濟學原理」（一八九〇年）、「產業經濟學綱要」（一八九二年）、「產業貿易論」一九一九年）、「貨幣、信用及び商業」（一九二三年）である。

マーシャルは、少くとも四十年以前に到達した幾多の見解をば、何故、晩年近くなるまで世に公表するを見合

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

せたかは一つの疑問である。この疑問に興味ある讀書はケーンズの周到なる論議に就て見られよ。

三

グスターフ●カツセル曰く「古典派經濟學は、マーシャルの述作によつて、其の最高完成の域に達し、最も新らしき諸思想を綜合して居る」と。この叙述を敷衍するに先立ち、又マーシャルの經濟學に對する特殊なる貢献を研究するに先立ち、比較的一般的性質を有する二、三の點にして注目に値するものがある。

第一に、何ぴとゝ雖も、マーシャルの述作を閲讀するに當り、其の智識の廣汎なるに驚歎せざるはない。我等が彼の著書の一つを取り其の索引を見るならば、そこには數百人の氏名表を發見する。之等氏名の各々は一卷の書物を代表するものであり、時には數卷を表はすものなることを我等は知つてゐる。我等は又政府報告書、雜誌及百科全書に表はれたる論文の數限りなく參照せられて居ることを知り、かくして、マーシャルは英國經濟學者中の最大碩學であり、苟くも彼の論題に何等か關連を有つものは總べて之を讀破したといふ感じを、我等の腦裡に愈々強めるのである。此の、恰も手袋の如く手輕に身につけてる博識が、多年研究の結果をぱ、一聯の章句の中に收めしめたものなのである。二個の簡單なる章句が——我等は此の如きものを數打も引用し得るが——我等の云はんと欲する所を說く役目をするであらう。「通俗の歷史は工場時代以前の民衆の困窮を輕視して居る」。「英國に於ける諸發明の主たる特質は、其の天才的なる點にはなし。」彼は讀書による智識と等しく、又商工業の實際

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

に關する智識の所有者であつた。アダム・スミス以後の經濟學者にして、現實の世界に對し、かくも廣大なる智識を有し、工場及び事務所の生活に關する實際的細目に、かくも深き興味を抱いた著者は一人もなかつた。アダム・スミスと同じく、彼の腦裡には事實が充滿されてあつた。

第二に、他人の才能を認め、その業績を賞翫することの速かなる、彼に優る者は未だ全く存在しない。彼の著書は「堂々たる」とか「劃時代的」とかの贊辭を以てかざられてる。此のことが、彼のジェヴオンス「純理經濟學」を峻嚴に紹論したことを明かならしめて居る。蓋し、マーシャルの心裡には、該書がリカードー及びミルを其の正當なる價値以下に取扱つて居ると思はれたからである。既に明かにせる如く此の書の中で（著者は第五章でジェヴオンスを論じ居るなり……譯者註）、ジェヴオンスは、經濟學の數學的理論を提供せんと試みた――彼は之を前人未踏の境地と考へたのであつた。マーシャルはその評論を結ぶに、次の如き難詰の言を以てして居る。「我々の面前にある書は、その中より數學を除き、圖表のみ留めしならんには良きものとなりしならん」と。ずつと後に至つて彼はこの評論について云つて居る「リカードーは何等數學的素養の助けを借らずに、最も把捉し難き數學的推理の過程を通過して、自分の方向を進めた其の天才は、誠に彼をして我が英雄の一人たらしむるものであつた。されば、余のリカードーに對する年若き誠實は、ジェヴオンスの書をよんだ時に湧き立つたのであつた」と。彼は自ら熟達の士たりしが故に、他人の熟達を稱贊した。彼はアダム・スミスに就て云つた。「彼はこの書を十全に成し遂げてるが故に、後代の人々は、何等大なる附加をなさなかつた。唯彼等は幾多の修正を加へ、科學的體

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

系を與へたにすぎぬ」と。

スマート曰く「經濟學者の中には、少くともアダム・スミスまで溯つて知る所の一個の了解が存在する。それは經濟學並に經濟學的論議では、產業界の通常用語は、其の產業界で一般に意味する通りに用ふべきであると云ふ事である」又續いて「幾多の點に於て、これは弊害となつたものであつた。」と。マーシャルはアダム・スミス及びミルの偉大なる英國傳統に從つて居る。之——彼が經濟學の圖表的取扱の建設者ではあるが——其の圖表の大多數を附錄に追ひやつてる理由の一つである。「經濟學の難問につき、之を數學的推理によつて、自已の腦裡に統制する時、始めて數學を捨て、一般人に理解せられる言葉で、その云はんとする所を表現することが最も良きことを知る。」かくて我等は之を知る、マーシャルの言葉の全意義を把握せんと欲するものは、何びとゝ雖も、それを再三再四反讀しなければならぬ。人若し充分なる犧牲を拂ふことを欲せざる時は、彼が云はんとする所を了解し得ないものであることを。

マーシャルは、自著の標語として、或る含蓄に富む律言を撰ぶのが常であつた。「經濟學原理」の標語は「自然は飛躍せず」といふ。言ふ心は、經濟的進化は、その數限りなき行程に於て、漸次的且つ間斷なきものであるといふに在る。「產業貿易論」の標語は、「一則ち多、多則ち一」といふ。蓋し彼自身その序文に云つてゐる「夫れ〴〵の產業及び經濟制度の作出に、幾多の傾向が之まであらはれた……他方に又、大多數の重要なる傾向は何れも、諸條件——その條件の下で之が作用するのである——によつて、甚だしく變化せしめられるが故に、その徹底的

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

研究のためには、多數の事實の分野に行き渡ることが必要である」と。更に彼が一度も公には用ひなかつたが、も一つの標語があり、等しく彼の腦裡を離れぬものであつた。即ち、「人は汎ゆる事物の尺度なり」と。窮局に於て經濟學は人間研究である。ピグー教授は言ふ「されば、彼にとつて經濟學は、倫理學の侍女であり、それ自體目的ではなく、更に高遠なる目的への手段であつて、その完成によつて、人間生活を一層良くならしめ得る手段なのである。」エッヂウオースは曰ふ「賃銀論に於けるマーシャルの成功は、主として彼が賃銀勞働者に對して抱ける同情に因る。彼自身の比喩の一つを用ふるならば、彼の産業生活研究は『將棋を遊ぶ人が、その失ふ桂馬や歩に歎息をもらさぬ樣なやり方』ではなかつた。『余は最近二十五年間貧窮問題に努力した。而して之に關連なき研究に竭くした所は極く極く僅少である」と彼は（一八九三年）老年貧民に關する王立委員會の席上で、自ら證據立てゝる。

我々は今や、尙詳細にマーシャルが經濟學研究方法上に齎した大變革について考察すべき時になつた。廣く云つて、我等はそれが二つあることを云ひ得る。第一に、彼は純理經濟學の領域内にて、「歷史學派」の教説を正當に理解した最初の人であつた。第二に、彼は、英吉利派の異説とジエヴオンス及び墺太利學派の説とを調和する價値理論に到達した。換言すれば、生産論の研究から出發して到達せる價値觀念と、消費論の研究から出發して獲得せる價値觀念とを調和せる最初の人であつた。

我等はマーシャルがヘーゲルを讀むことによつて深き影響をうけたことを明かにした。扨て、ヘーゲルはバリ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

オル大學の校長が云へる如く「十九世紀の偉大なる歴史的研究方法の建設者で、すべての社會學的研究は、今日之に從つてるのである。總べて此の種の研究の著しい特徴はその制度を、夫れ夫れの歴史の光明の下に認識せんと不斷の努力、即ち進化の信念に在りとせらるゝに至つたことはヘーゲルの力に俟つのである。此の思想は順次人間研究の一部間から他の部間へと應用せられ、その時代を支配したのであつた」

マーシャルは常に變らず「發達」又は「進化」の思想を利用する。彼は更に一歩を進める。舊派英國經濟學者は、人間をば主として心理學的立場から眺めた。彼等は「經濟人」を論じ、之を以て、その時代に於けると同じく、あらゆる時代に不變に存在するものと假定した。マルクスは最も冷淡な粗撲さでベンザムに就て云ふ「彼は近代の店主、殊に英國の店主をば常人と考へたのだ」と。「スミス學派」と自ら名附けた此の學説を攻撃した獨逸經濟學者の一大學派は、一時代の社會狀態の分析が、そのまゝ他の時代に當てはまるものではないことを主張した。コムトの影響の下に、ミルは之を感得したが、曩に我等の觀察した如く彼は、十八世紀の英國心理學による人間觀と十九世紀の進化學説による人間觀とを調和せしむることに成功しなかつた。然るに、マーシャルは、舊派英國經濟學者の見解に含まるゝ眞理と、獨逸歴史學派の人々の所説が藏する眞理とを等しく公平に取扱つた。彼の裡に我等は歸納法及び演譯法の功績が結合されて居るのを見る。彼が「一則ち多、多則ち一」なるモットーを掲げたることは、蓋し意味無きではない。

第二に、總べての經濟學の教科書の著者が自ら力説せざるを得ない如く、マーシャルは、舊派經濟學者の教説

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

と、ジエヴオンス及び所謂墺太利學派の人々の見解とを公平に取扱つた最初の人であつた。マーシャルにとつてはジエヴオンスは、リカードーの如く一方に偏して居り、リカードー以上に固陋であつた。「努力」と「慾望」とは調和せねばならぬと口にすることは簡單なことに思はれるが、それを云ふためには一人のマーシャルが必要である。英國學派は、價値が生産に費されたる努力に依存すると主張し、墺太利學派は、價値が買手によつて感ぜられる慾望の度合に依存すると答へる。マーシャルの體系の中で、初めて、之等相抗爭する諸説の眞理を平等に取扱つたのであつた。二者は眞理の一面である。鋏が物を切る時、上の刄が切るのか、それとも下の刄が切るのかと問ふのは無意義である。

ケーンズ氏は、貨幣理論に對するマーシャルの偉大なる貢献を明記して居る。マーシャルが經濟學を豊富ならしめた顯著なる諸思想については、同じ權威が明記してる所を顧みるに如くものはない。我等は以下單に之を指摘するに止める——。

1 Substitution at the margin(Principles, BK. VI, CP, Xi, Par. 5)

2 The element of time or a factor in economic analyis. (Economics of Iudustry, CP. V, 228–235)

3 Quasi-Rent, applied to capital (ib. 395) labour(ib.388–9) business (ib, 312–3, 339–41, 386)

地代（レント）と準地代（クアーザイ・レント）とを區別することに就てエッヂウオースは言ふ「この區別は恐らく、地代論そのものゝ發見と同じく重要なことを證するであらう」と。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

4 Representative Firm (Economics of Industry, pp. 200, 219)

5 Consumers Rent(Economics of Industry, 94, 247—9)

6 Money (Economics of Industry, 247—9)

7 Elasticity of demand (Economic of Industry, 84)

8 External and Internal Economics (Economics of Industry, 170)

ピグー曰く「準地代、代表的營業、外部的經濟、內部的經濟、消費者餘剩、需要の伸縮性等の言葉に含まるゝ概念を以て、彼は之まで知られて居たものとは別個のものを構成した。恰も、近代の機關車がステイーヴンソンのロケツト(Rocket)と異なるが如くである。彼が卓越せる點は、價値一般の分析にあれ、貨幣の分析にあれ、或は國際貿易の分析にあれ、此の種の構成に存する。彼は熟練ある不撓の道具使用者なりしが故に、又道具の製作者として、英國經濟學者中唯一人、スミス及びリカードーの仲間入りをし、之と肩を並べて居るのである」と。

（終）